

# ヴィクトリア朝の時代精神と社会風潮

## — 『クリスマス・キャロル』における暴力と想像力 —

松岡 光治（英米文学分野）

<http://victorian-studies.net/20170516.pdf>



# 「力による平和」外交：アメリカは善か悪か？

2

米国第一主義を掲げて軍事行動を活発化させるトランプ米大統領

「平和は力によってのみ達成される」 (ペンス米副大統領、2017.04.18)

力＝軍事力

軍事力＝経済力 (米国・中国)

軍事力 > 経済力 (北朝鮮)

使用しない核のバランス  
累卵の危機と核の道連れ

記憶と想像力の重要性

「我々が進歩を望むなら、歴史を反復してはならない。新しい歴史を作らねばならない」 (マハトマ・ガンディー)



# 暴力の始原とその根源

3

旧石器時代（狩猟採集社会：200万年前）における他人の暴力による死  
＝全体の死の15%（男性は25%）：石器（生活の道具⇒戦いの道具）

暴力の根源＝乏しい資源を自分の生存のために確保したいという人間の  
生来の願望

新石器時代（農耕定住社会：紀元前8500年）：血縁集団による氏族社会  
（村の共同体）から、貧富・階級の差のある大きな部族社会へ

自衛手段として武器  
の所有⇒  
暴力を独占する都市  
国家の成立⇒  
戦争の規模拡大



# 戦争の歴史

大航海時代（地理上の発見：15世紀中葉～17世紀中葉）

スペイン・ポルトガルによる海外進出と布教活動

白兵戦から火器の使用へ

兵士の武勇の問題から武器調達の経済力の問題へ

軍事力の拡大と集中による中央集権的な国民国家の成立



# イギリスの植民地主義と産業革命

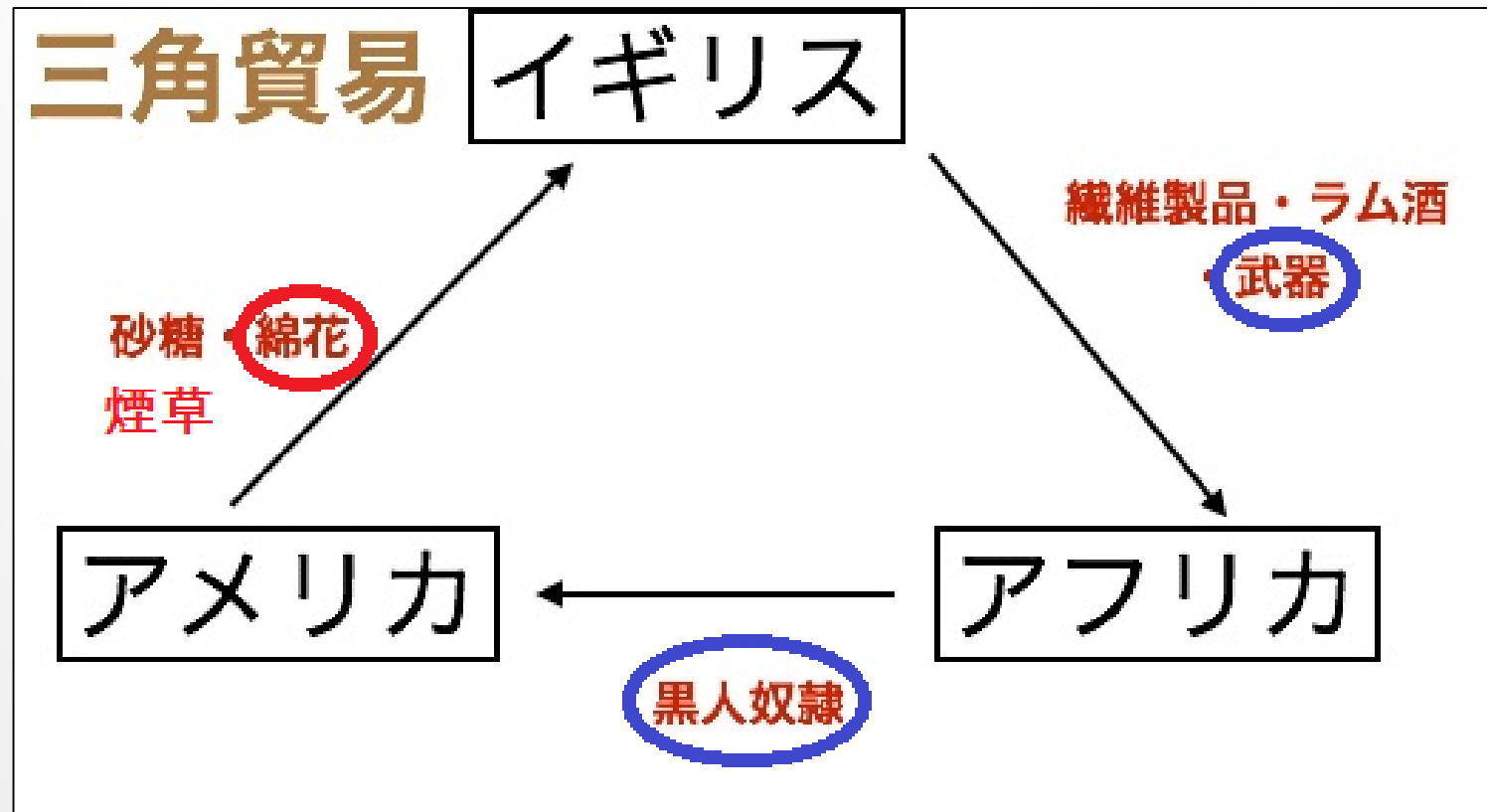
植民地は18世紀後半の産業革命の基盤であった綿工業を支える三角貿易の中継地点

奴隷貿易の禁止 (1807) はナポレオン戦争時の道徳的戦略

奴隷制度の廃止 (1833)

南北戦争とリンカーンの奴隷解放宣言 (1862)

グローバル経済と現代の奴隷制 (発展途上国における低賃金労働力としての児童の奴隷化)



# 産業革命によって進展した近代資本主義社会

6

## ＝暴力に立脚した社会

産業資本家の権力と自由放任主義 (laissez-faire)

少数の資本家による大勢の

労働者への搾取＝

巧みに隠蔽された暴力

マルクス『資本論』(1867, 85, 94)

資本家＝搾取階級

人間の三つの社会的属性：

【階級】 【ジェンダー】 【人種】

R. J. Hamerton, "Capital and Labour"

(Punch, 29 July 1843) ⇒



# 中産階級の作家の大半の思想は中道右派

7

体制の転覆を目ざす暴力による社会変革に反対  
社会問題に対する解決策＝現状 (status quo) の道徳的改善

労働者階級に対する両価感情 (ambivalence)

(共感) 個人としての労働者 × (反感) 集団としての労働者

「個人が集団になると抑制が脱落し、原始的な破壊本能が目覚める」 (フロイト)



← Charles Dickens  
(1812-70)

Elizabeth Gaskell →  
(1810-65)



# ディケンズとギaskellの社会問題への解決策

自由放任主義 × キリスト教的干渉主義 (Christian Interventionism)

前近代的な家父長社会における父親的温情主義 (paternalism)  
神と人間との関係を父と子の関係として考え、上位者が下位者を、  
強い者が弱い者を、金持ちが貧乏人をいたわる「慈愛 (charity)」  
キリスト教の三大徳：信・望・愛  
(faith, hope, charity)

Thomas Brooks, *Charity* (1860) ⇒

社会的弱者の問題に善意をもって  
介入し、共感と同情を抱くために  
必要となるのが「想像力」

博愛主義 (philanthropy = L. loving +  
human being = humanitarianism)





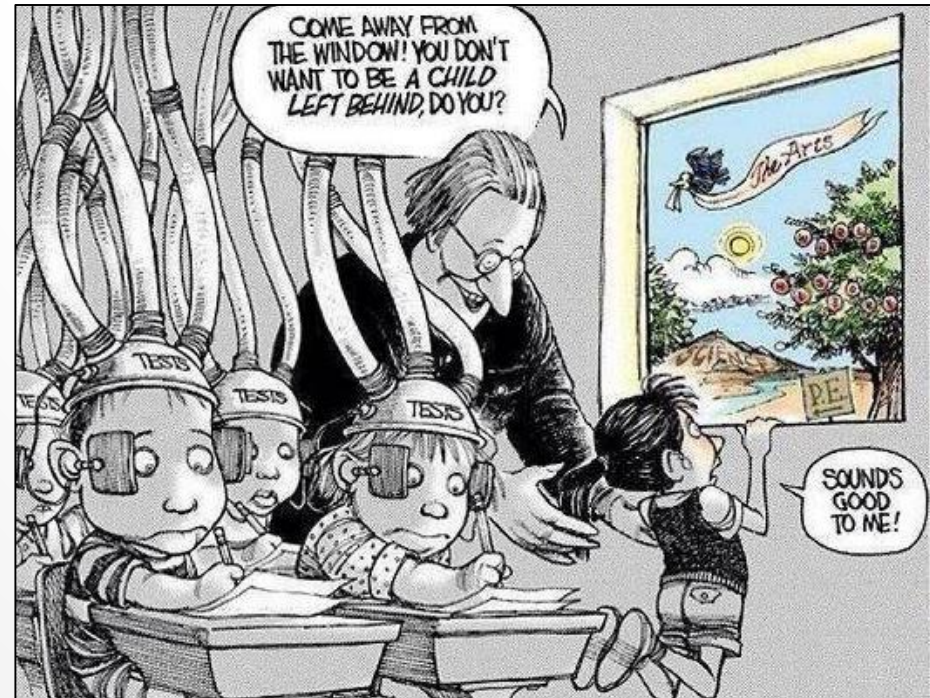
# 想像力に内在する無限の可能性

社会における芸術や娯楽の価値を訴え続けたディケンズ

『ハード・タイムズ』 (*Hard Times*, 1854) 「生き抜くための息抜き」

ベンサムの功利主義に基づく教育（事実・数字×空想・想像力＝科学×文学）

事実や数字は把握して管理可能だが、想像力はその自由な活動性ゆえに制御不能  
支配者の権力・権威（＝暴力）に対する攻撃の武器としての「想像力」



# 想像力による権力・権威への皮肉や諷刺

想像力による言葉遊びや比喩表現のような言語的戦略の発想

○イタリア遠征時の宮廷舞踏会でのナポレオンの高飛車な発言

「イタリア人はみんなダンスが下手だ」 (Napoleon Bonaparte)

○ある貴婦人の皮肉な言葉遊び

「みんなではなく、大部分 (buona parte) ですよ」

(フロイト「ウィットとその無意識との関係」1905)

「最悪の策とはほとんど常に最も臆病な策である」

「不可能とは臆病者の言い訳である」

弱い者イジメの臆病者 (防衛規制としての投影)

防衛規制：不安を軽減しようとする無意識的な  
心理的メカニズム

投影：受け容れがたい自分の性質を無意識に抑圧し、  
他人の性質と見なすことで不安を処理すること



# ディケンズの言葉遊び

『ピクウィック・クラブ』 (*The Pickwick Club*, 1836-37)

判事の暴力から主人を守る想像力の豊かな召使サム・ウェラーの皮肉

「この国は、お裁きでホントに不公平のねえところだ.....お代官様はみんな、他人様の身体を拘束する (commit other people) よりか、その倍も自分が進退きわまる (commit himself) からな」

洗練された良質のユーモアによる笑いが公務執行型の暴力（恣意的な暴力）を武装解除させ、沈黙させる。

弱い者を笑うこと×権力者を笑うこと

「日本のお笑い芸人は権力批判できない」  
(茂木健一郎)

「お笑いがこうあるべきだは一番窮屈だ」  
(太田光)



# 【階級】 抑圧の移譲による精神的均衡の保持

12

(丸山眞男「超国家主義の論理と心理」1946)

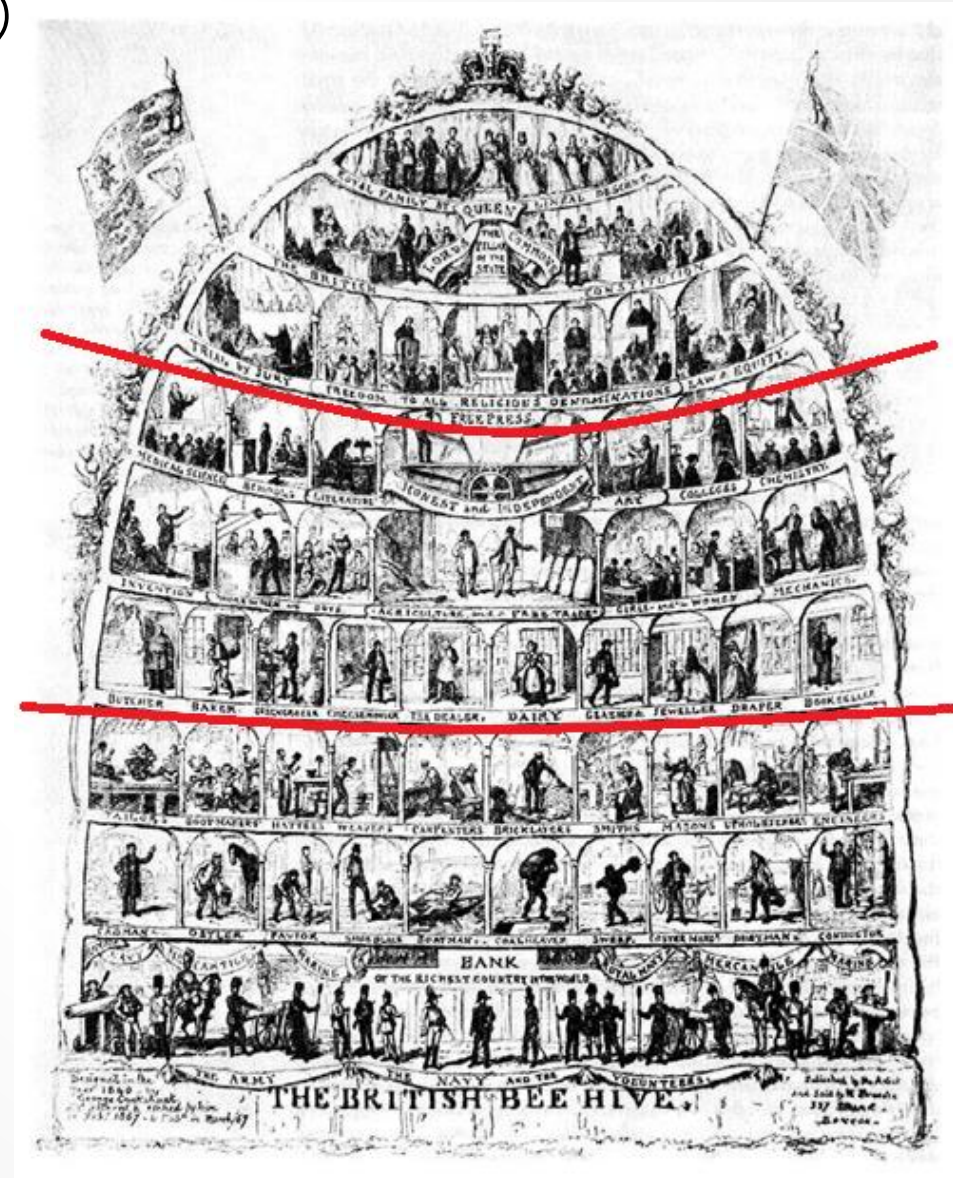
女王を頂点としたピラミッド型の階級を基盤とするヴィクトリア朝社会では、上から受けた抑圧を下へ譲り渡すことによって精神のバランスが保たれる。

「やんごとなき貴族から汚い慈善学校の少年まで階級に関係なく見られる」

(*Oliver Twist*, 1837-39)

慈善学校出身を理由にいじめられた少年が、腹いせに救貧院出身のオリヴァーをいじめる。  
階級的な劣等性を他者に投影することでの抑圧の移譲による精神的均衡の保持

George Cruickshank, *The British Beehive* (1867) =>



# 【ジェンダー】暴力のジェンダー化と二重規範

資本主義と家父長制の共犯 ⇒ 労働市場と家庭における女性の抑圧  
女性の無権利状態が合法化 ⇒ 行為主体が明確でない「構造的暴力」

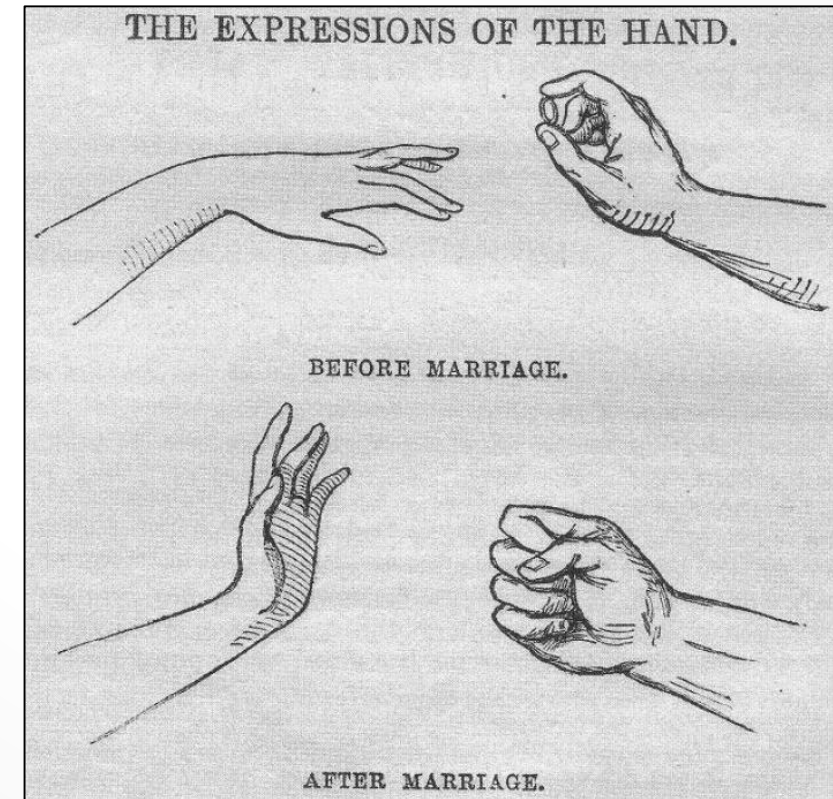
〈飢餓の40年代〉から50年代～60年代の〈ヴィクトリア朝大好況期〉へ  
婦女子加重暴行防止・処罰法案 (1853) ⇒ 中産階級における暴力の抑圧と内面化  
労働者階級における夫の妻に対する家庭内暴力

性の二重規範を免罪符とする紳士が抱く二つの女性像：  
「家庭の天使」と「堕ちた女」（妻と愛人／売春婦）



「手の表情—結婚前と結婚後」  
『パンチ』(1856) →

人形劇  
「パンチ・アンド・ジュディ」  
パンチが使う暴力の道具は  
ヘゲモニーを握るための男根  
の象徴 (phallic symbol)



# 【人種】 ショーヴィニズムによる人種差別

愛国的狂信主義：攘夷 (chauvinism, xenophobia, jingoism)

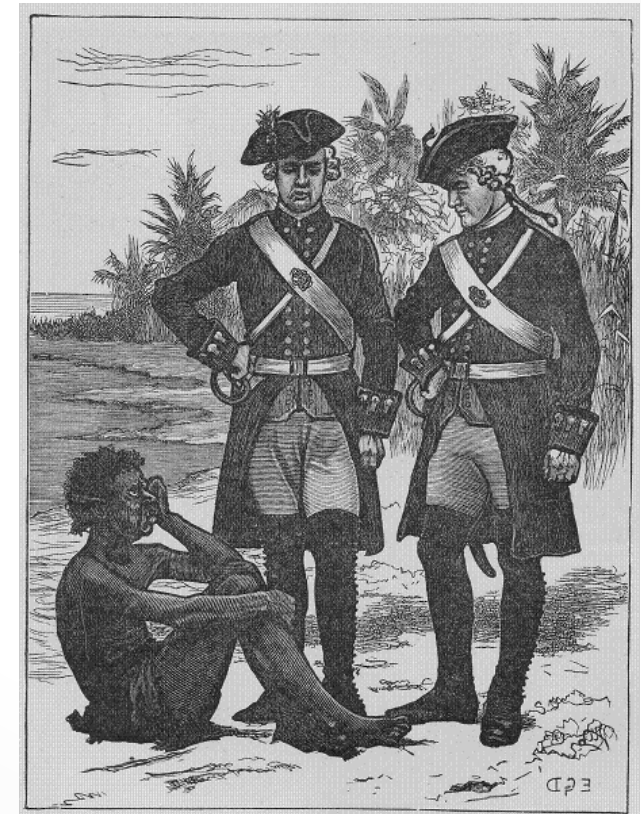
海賊あがりの Francis Drake はエリザベス一世の海軍提督として、アルマダの海戦 (1588) でスペイン無敵艦隊を撃破 ⇒ 以後、英国は帝国主義時代の終わりまで海外の有色人種に対する暴力と略奪によって維持された海賊立国 (Cf. 大英博物館)

カーライル「神の意志」、キプリング「白人の責務」  
コーカソイドの「白」=すべての色の可視光線が乱反射した時に人間が知覚する色 ⇒ ネグロイドの「黒」、モンゴロイドの「黄」は、「目の中の梁」(「マタイ福音書」7章3節)  
暴力性・残虐性といった有色人種の劣等性は投影の産物

植民地主義・帝国主義：文明化された中心と文明化すべき周縁

啓蒙主義 (Enlightenment)：植民地を無知蒙昧から救う思想

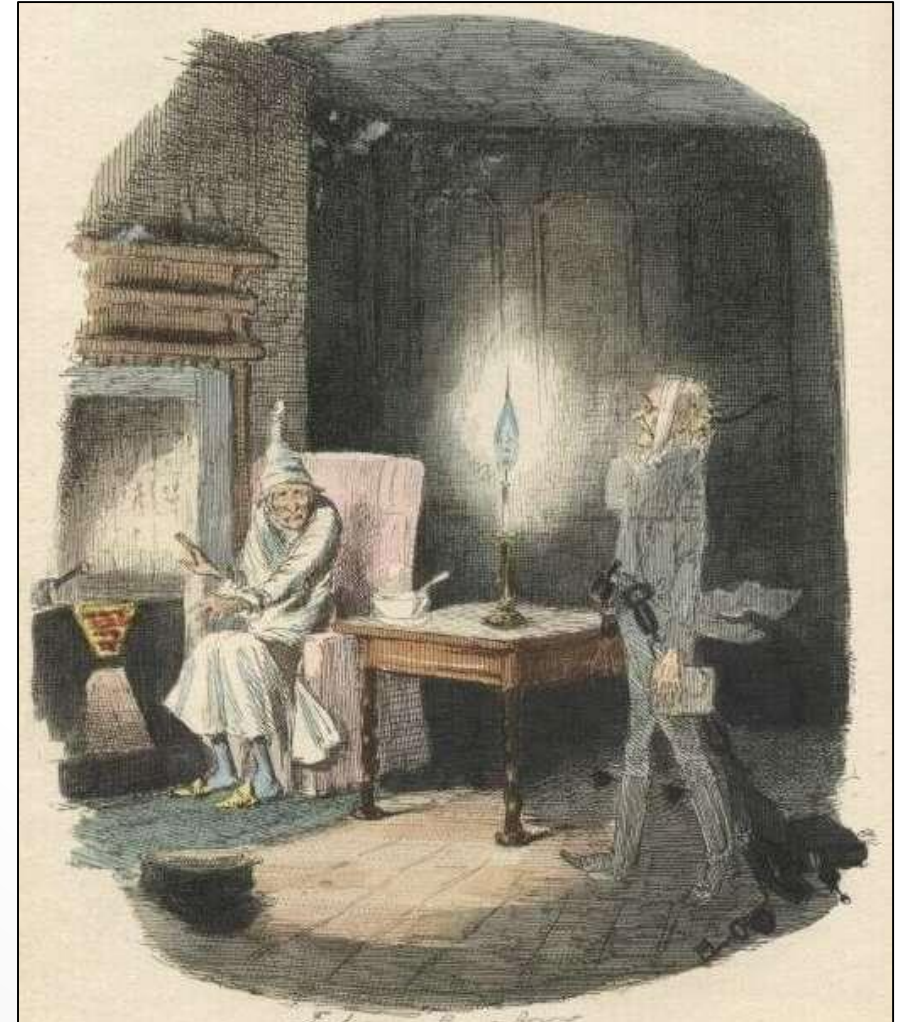
(皮肉) ロンドンの中心イースト・エンドの阿片窟=阿片戦争で侵略された植民地による暴力的な逆襲の具現化



# Charles Dickens, A Christmas Carol, 1843

15

- ・ 強欲で孤独な金貸し老人 Ebenezer Scrooge (Screwed)
- ・ 安月給で酷使される事務員 Bob Cratchit
- ・ クリスマスの募金を集める三人の紳士
- ・ クリスマスの祝いに来る甥 Fred
- ・ 死んだ共同経営者 Jacob Marley の幽霊
- ・ 過去のクリスマスの幽霊
- ・ クリスマス休暇の迎えに来る妹 Little Fan
- ・ 優しい親方 Fezziwig と滅私奉公する徒弟
- ・ 拝金主義が原因で分かれる恋人 Belle
- ・ 現在のクリスマスの幽霊
- ・ 貧しいながらも楽しいクラチット家の人々
- ・ 足が不自由で松葉杖をつく Tiny Tim
- ・ 犯罪予備軍の孤児たち (Want & Misery)
- ・ 未来のクリスマスの幽霊
- ・ 死んだスクルージに復讐する家政婦



# ディケンズ・フェロウシップ日本支部

16

映画 : <<http://www.dickens.jp/cd-films.html>>

*A Christmas Carol* (1910) [Silent] Thomas Edison Film  
<https://www.youtube.com/watch?v=nmp9RbFThwM>

The day before Christmas, Ebenezer Scrooge refuses to contribute to the Charity Relief Committee, and then rudely rejects his nephew Fred when he visits Scrooge in his office. When Scrooge returns home, he sees the ghost of his former business partner Jacob Marley, who warns him of the punishment he will suffer in the next life if he does not change his ways. That night, Scrooge is visited by three more spirits, who show him his past, present, and future him.

Disney's *A Christmas Carol* (2009) =>





# Scene 1 (00:05): The day before Christmas

17

Scrooge, a hard fisted miser, receives an appeal from the Charity Relief Committee.

守銭奴（貨幣経済社会における精神的暴力としての金力）

シェイクスピア『ヴェニス商人』 (*The Merchant of Venice*, 1597)

ユダヤ人の金貸しシャイロック。

尾崎紅葉「夏小袖」(1892) 翻案：モリエールの戯曲『守銭奴』 (*L'Avare*, 1668)

尾崎紅葉『金色夜叉』（読売新聞、1897-02）  
富豪の富山唯継に靡いた許嫁のお宮を熱海の海岸で蹴り飛ばし、復讐のために高利貸しになる間貫一の物語。

【比較文学】 底流をなすものと似て非なるもの

熱海の海岸にある貫一とお宮の像 ⇒



# 産業革命で成立した近代資本主義社会における暴力 18

アダム・スミス『国富論（諸国民の富）』（1776）

工業生産力の増大を支える理論＝市場法則なる〈神の見えざる手〉が働き、各個人の利益追求は公共の利益と一致して国富の増加となる。

マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1905）

プロテスタントの世俗的な禁欲主義が資本主義の精神に適合していたという逆説的な論理（産業資本家によって好都合な自由放任主義との親和性）

新興ブルジョアジーの倫理観：富裕は勤勉なる美德、貧困は怠惰なる悪徳の結果

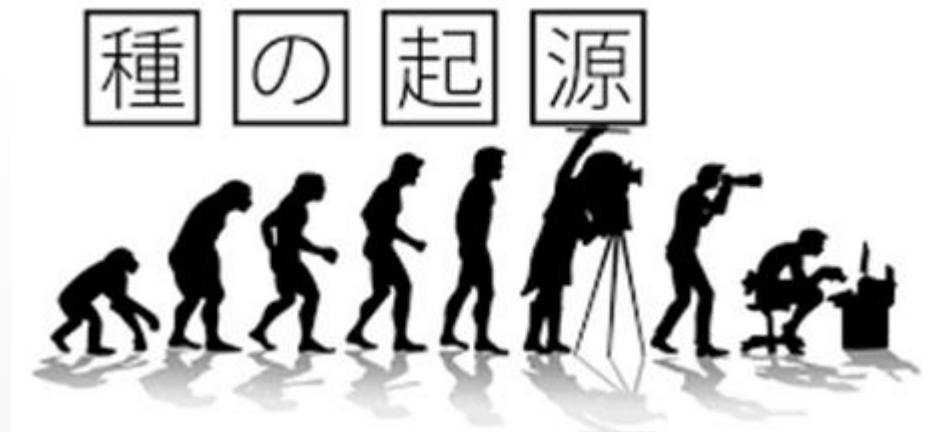
自由放任主義（現代版は規制緩和）：ピューリタンのな〈自助の精神〉に欠ける貧者の窮状は自己責任 ⇒ 有産階級と無産階級という〈二つの国民〉の格差拡大および固定化が様々な社会問題を生む。

Samuel Smiles, *Self-Help* (1859)

⇒ 『西国立志編』（中村正直訳、1871）

Charles Darwin, *On the Origin of Species* (1859)

進化論の概念「適者生存 (survival of the fittest)」



# Scene 2 (00:29): スクルージの事務所＝社会の縮図 19

暖炉の石炭入れ＝支配者（資本家）が握る生殺与奪の権の象徴  
「一望監視システム (Panopticon)」＝不可視の暴力装置

功利主義者ベンサムが設計した中央の塔から円形に配置された独房を監視できる牢獄。フーコー『監獄の誕生』(1975)

近代社会＝監視社会の誕生：強制・抑圧の権力から監視の権力へ

情報管理社会における主体の構築  
ツリー構造を持つDNSの最上位に存在するルート・サーバの管理者

Google Earth は諸刃の剣？

独裁者による監視社会を描く  
オーウェルの小説『1984年』  
⇒ 現代の防犯・監視カメラ社会



# Scene 3 (00:44): 自由放任主義 × キリスト教的干渉主義

募金集めに来た三人の紳士（東方の三博士、三人の幽霊）

スクルージ＝自由放任主義の体現者：

“I want to be left alone. . . . I don't make merry myself at Christmas and I can't afford to make idle people merry.”

“It's enough for a man to understand his own business, and not to interfere with other people's. Mine occupies me constantly.”

「愛の反対は憎しみではなく無関心」（マザー・テレサ）

キリスト教的干渉主義：「善きサマリア人」

「ルカ福音書」10章25-37節

George Frederic Watts, *The Good Samaritan* (1852) ⇒

米国の「善きサマリア人の法」 × 善意につけ込む詐欺行為 / 無関心



# Scene 4 (02:15): 日常の非日常化と想像力

21

帰宅したスクルージ：扉のノッカーがマーレイの顔に変化する意味

異化 (defamiliarization) :

慣れ親しんだ日常的な事物を奇異で非日常的なものとして表現するための手法

現実を異化する（現実の問題を解決する）想像力

= 大人が経験によって喪失した天与の才

⇒ 子供の心を抑圧する暴力的イデオロギー

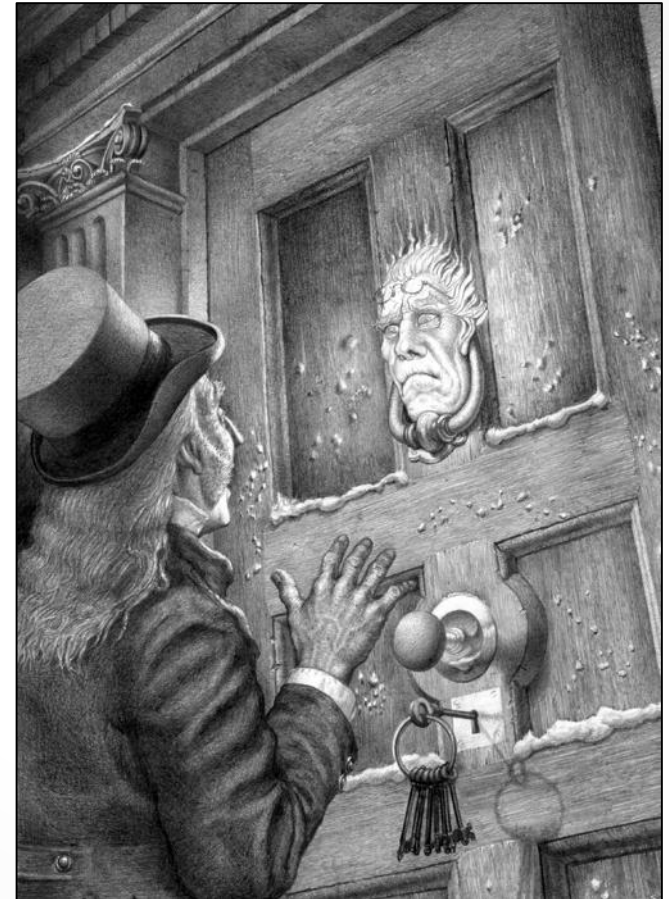
= 弱肉強食の市場原理主義、成果主義、拝金主義

心理的リアリズム :

マーレイ・過去・現在・未来の幽霊は、スクルージ

の抑圧された善の分身がクリスマスを前に刺激

され、彼の生来の想像力によって視覚化された現象



# 主人公の想像力と作者の燻製ニシン

“[Cratchit] put on his white comforter, and tried to warm himself at the candle; in which effort, not being a man of a strong imagination, he failed.” (善人クラチット)

“Scrooge had as little of what is called fancy about him as any man in the city of London.” (悪人スクルージ)

推理小説の常套手段：燻製ニシン (red herring)

＝読者の注意を他にそらす文学上の技法

- ・ 燻製ニシンの虚偽
- ・ 論点相違の虚偽 (論点のすり替え)
- ・ おまえだって論法



想像力の意識的排除が想像力の無意識的活用につながるというパラドックス

‘If I could work my will,’ said Scrooge indignantly, ‘every idiot who goes about with “Merry Christmas” on his lips, should be boiled with his own pudding, and buried with a stake of holly through his heart.’

想像力がたくましいスクルージの仮定表現  
⇒ 仮定法過去は現在の事実と反することを  
仮定する想像力が必要

物語に熱中した子供時代のスクルージ ⇒  
生来の想像力は大人になって抑圧されている  
だけ ⇒ 生まれ変わる可能性の残存



... a lonely boy was reading

クリスマスの精神への悪意から生じた気味の悪い冗談 (gallows humour)

キリスト教文化圏におけるユーモア：「神の目から鳥瞰的に見れば、人間共通の

（五十歩百歩の）弱点にすぎない矛盾・滑稽さ・愚かさを寛大な心で眺めて楽しむという気分 (humour)」、「節度ある笑いによって赦してやるというキリスト教の精神

(spirit)」（罪に対する赦し [forgiveness; absolution]）

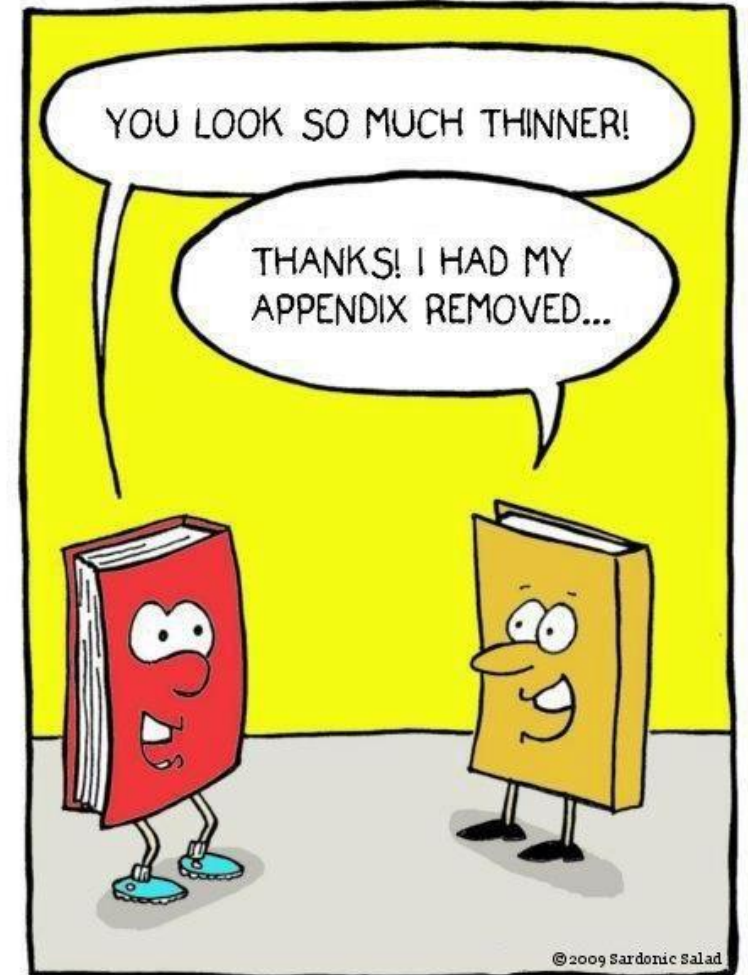
中世のチャージャーから連綿と続く英文学特有の伝統

British humour は愛情と共感、涙と笑い（浪花節）、

French humour は知的な諷刺 (esprit)。Cf. inspiration

【中世医学・生理学】「体液 (humours)」は、血液 (blood)、粘液 (phlegm)、黒胆汁 (black bile [melancholy])、黄胆汁 (yellow bile [choler]) の四種、その割合で人間の体質や気質が決定されると考えられた。

Cf. good-humoured





ユーモア：暴力的発言に対する直接の暴力的反撃（目には目を）ではなく、想像力という武器を駆使した諷刺・皮肉という間接の暗示的反撃

想像力は自分が相手の立場になり、理解し、共感・同情できるための必要条件

ディケンズの独創的な想像力が発揮される as if / like 表現（直喩 [simile]）  
仮定法を通して事実を暗示する独創的表現（無意識・抑圧された感情の表現）

スクルージの甥フレッドのクリスマス観

But I am sure I have always thought of Christmas time  
... as ... the only time I know of, in the long calendar  
of the year, when men and women seem by one  
consent to open their shut-up hearts freely, and to  
think of people below them as if they really were  
fellow-passengers to the grave, and not another race  
of creatures bound on other journeys.（人生＝道＝川）



# Scene 5 (02:47): スクルージの言葉遊び

スクルージの理性主義（合理主義）：近代科学の理論的枠組みを確立したデカルトの方法的懐疑「我思う、ゆえに我あり」×ロマン主義

マーレイの幽霊を信じないスクルージ

Scrooge had often heard it said that Marley had no bowels, but he had never believed it until now. (作者の言葉遊び)

“Who are you?”

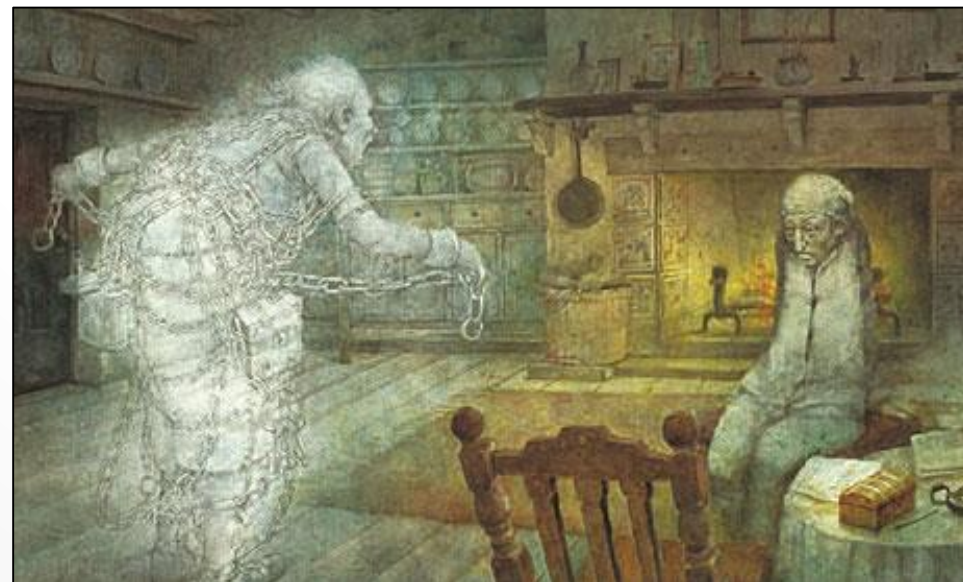
“Ask me who I was.”

“Who were you then?” said Scrooge, raising his voice. ‘You’re particular, for a shade.’ He was going to say ‘to a shade,’ but substituted this, as more appropriate.” (スクルージの言葉遊び)

フロイトの錯誤行為 (parapraxis)

言い間違いに見られる抑圧された本音

マーレイ=自分の「影（分身）」としての認識



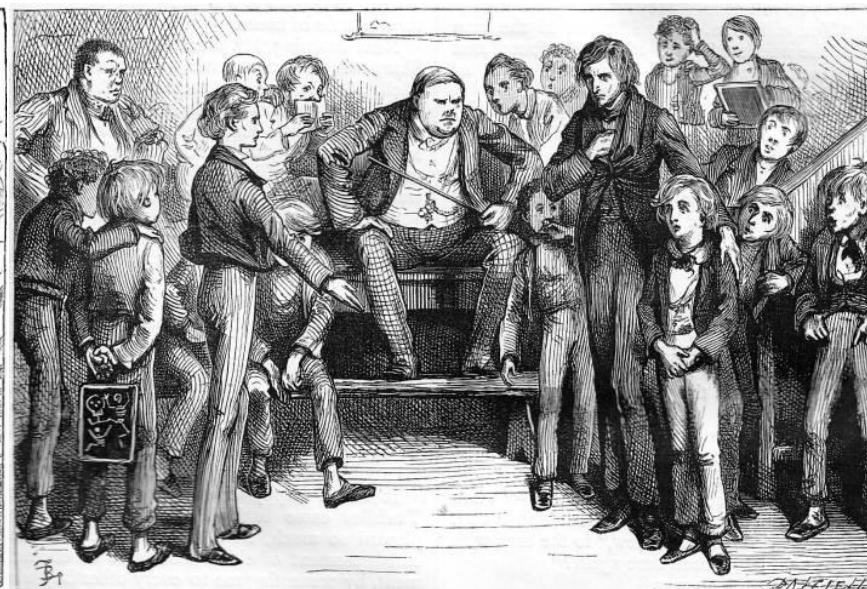
# Scene 6 (03:08): 孤児問題

27

実際の孤児：紳士階級の道楽息子に誘惑・遺棄される労働者階級の娘 ⇒ 妊娠・出産 ⇒ 解雇 ⇒ 売春 ⇒ 絶望 ⇒ 捨て子 (foundling)・庶子 (bastard) ⇒ 救貧院 (workhouse) ⇒ 投身自殺（自殺は神の似姿を殺す大罪：心臓に杭をぶち込んで四辻に埋められた。Cf. 晒し首）

孤児を主人公にしたヴィクトリア朝小説：*Oliver Twist* (1837-39), *Wuthering Heights* (1847), *Jane Eyre* (1847), *Vanity Fair* (1847-48), *Henry Esmond* (1852)

事実上の孤児：実父の死 ⇒ 母の再婚 ⇒ 義父のイジメ（遺産相続問題） ⇒ 田舎の寄宿学校での監禁 ⇒ 徒弟奉公（スクルージの徒弟時代）



# Scene 7 (04:30): 徒弟の立身出世とその弊害

28

## 徒弟時代のスクルージは普通の純情な青年

家内制手工業（前近代的なパターンリズム）：優しい親方と滅私奉公する徒弟

工場制手工業 (manufacture)：工場で賃金労働者が手作業で働く

工場制機械工業：工場において機械により製品を生産する

（産業革命によって英国は「世界の工場」）

英国昔話「ディック・ウィットントンと猫」

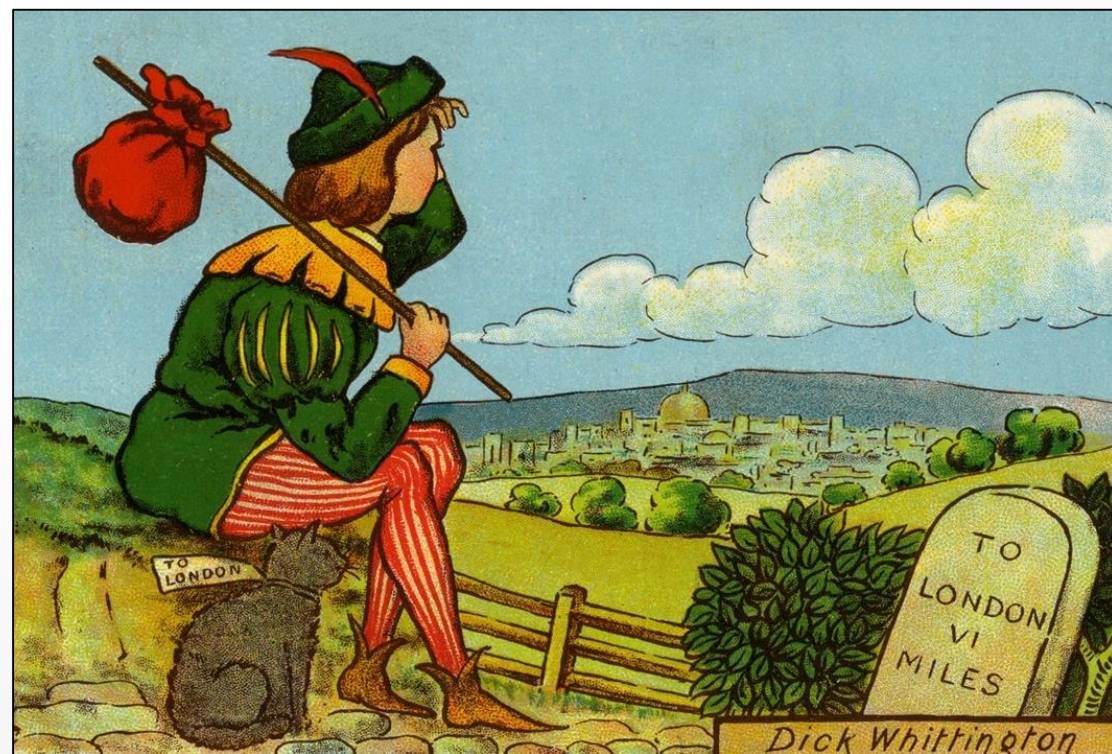
英国版「わらしべ長者」

自助の精神 (self-help) で立身出世して親方の娘と結婚する成功物語

パロディー版「スクルージの過去」

自助の精神の弊害としての拝金主義と婚約解除

個人主義と利己主義（善と悪は硬貨の裏表）



# Scene 9 (06:10): 娯楽と安息日厳守主義

29

貧しいクラチット家のクリスマス・ディナー

フェジウィッグ親方による徒弟たちのためのクリスマス・パーティー  
金を貯めること×金を使うこと（満足感の有無）

日曜日厳守主義 (Puritan Sabbatarianism) = 支配階級の偽善的な宗教思想

（休息の強要：月曜からの労働に備えて体力を回復させるが、召使の労働は例外とする法律の矛盾）

“Spirit, . . . I wonder you . . . should desire to cramp these people’s opportunities of innocent enjoyment. . . . You would deprive them of their means of dining every seventh day, often the only day on which they can be said to dine at all, . . . You seek to close these places on the Seventh Day,” said Scrooge.



# Scene 10 (07:55): 犯罪予備軍としての子供

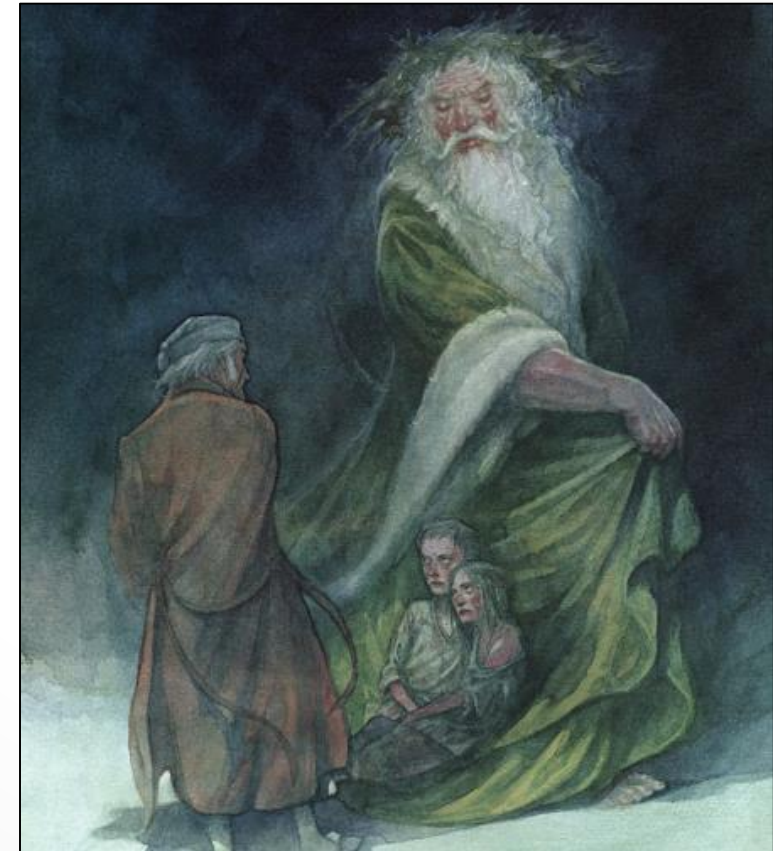
30

現在のクリスマスの幽霊が見せる「貧困 (Want)」と「不幸 (Misery)」  
いう名前の二人の子供 = 支配階級への死の警告 (memento mori) :  
第二のフランス革命勃発の危険性

“This boy is Ignorance. This girl is Want. Beware them both, and all of their degree, but most of all beware this boy, for on his brow I see that written which is Doom, unless the writing be erased.”

「無知」と「貧困」がイスラム原理主義過激組織のテロ活動を生む ⇒ 女性教育の重要性を訴えた少女マララ・ユスフザイの狙撃

公的教育費の対GDP比率 (1位 = Denmark, 8.61%  
96位 = Japan, 3.77%) → 為政者の教育観の違い  
⇒ 貧困の再生産 / 貧困の悪循環



# Scene 11 (09:12): 同害報復法「目には目を」

31

断末魔のスクルージと死者から婚約指輪を盗む女中

勧善懲悪／因果応報(古典的な文学形式:時代劇、西部劇)

キリスト教の善悪二元論

「目には目を」(同害報復法 [lex talionis]: 報復の量は同じ程度で、過度の報復を防ぐ)『旧約聖書』「出エジプト記」21章24-25節

米国による無限大倍の復讐

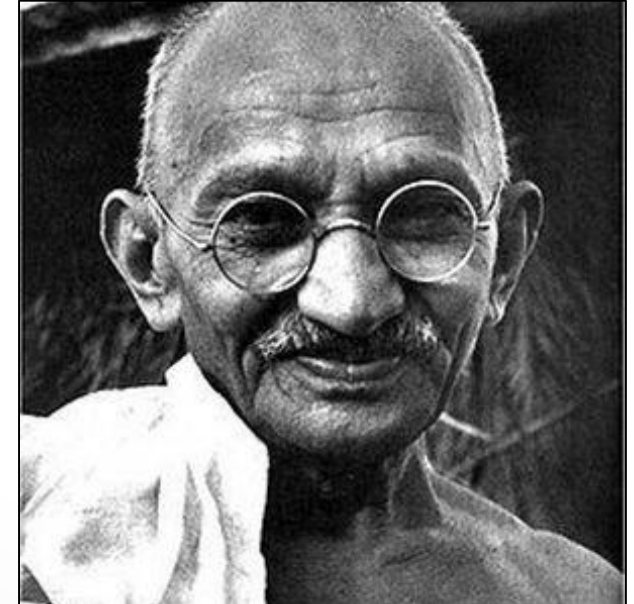
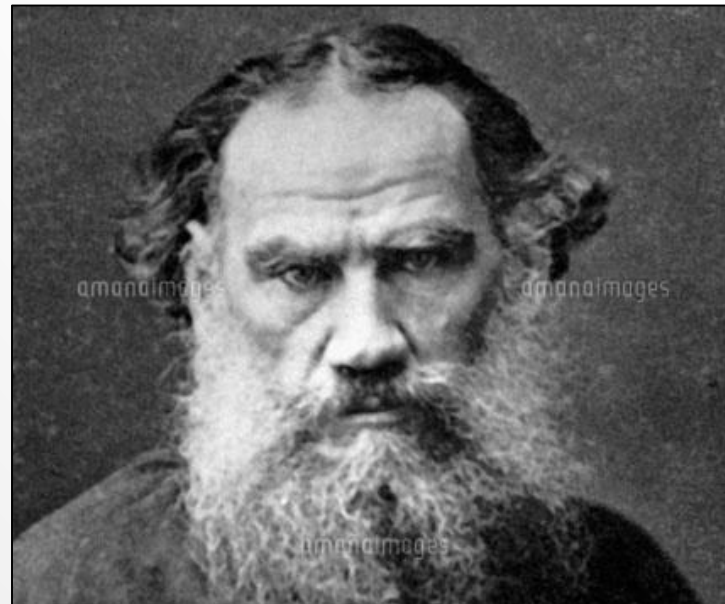
「右の頬を打たれたら、左の頬をも差し出さない」『新訳聖書』

「マタイ福音書」5章39節

トルストイの非暴力主義

ガンディーのサティヤーグラハ

非暴力の武器としての想像力



# Scene 12 (09:29): 幽霊の存在理由と意義

スクルージの墓を指さす未来の幽霊(暗示の「影」)

幽霊(spirits: 精霊、精神、酒精) / ghost「亡霊」 < Geist (G.=spirit)

「影 (shadow)」: ユング心理学において「影」は個人において生きて来なかった「もう一つの側面(人間の低級な一面)」、「意識にとって許容できない自分の暗黒面(意識から追放され、本人も気づいていない衝動・傾向・性質)」のこと

ある自己イメージが選択されると、それに対立するイメージは無意識に「抑圧」される。生理的に受け付けない人物という形で「夢」に登場したり、現実の人物に「投影」される。

「影」=分身(alter ego)、ドッペルゲンガー(G. Doppelgänger)

ハイド氏はジーギル博士の「悪の分身」

マーレイと過去・現在・未来の幽霊はスクルージの「善の分身」





# Scene 13 (09:56): キリスト教の新生とキリストの復活

スクルージが夢から覚めたクリスマスの朝  
罪に対する罰としての悪夢と臨死体験

キリスト教の新生 (born again; regenerated)  
とは、悔い改め (repentance) によって個人の  
罪が赦され、罪ある「人間の子」から「神の子」  
へと新たに生まれ変わることに

「新しく生まれなければ、人は神の国を見ることはできない」  
「ヨハネ福音書」3章3節

キリストの復活 (resurrection) : 十字架にかけられて  
死んだイエスが三日目に復活し、神は彼を通して人類  
に救いをもたらした。キリストの贖罪 (Atonement) ⇒  
「私は復活であり、生命である。私を信じる人は、  
たとえ死んでも生きる」 「ヨハネ福音書」11章25節



# Scene 14 (10:08): ロマン主義的な子供観

34

キャロルを歌う貧乏な子供たちに小遣いを与える喜び

神の国に入るには「幼子のようにならねばならない」 「マタイ福音書」 18章3節

18世紀小説の孤児遍歴（デフォー、スモーレット、フィールディング）

ロマン主義（情緒や自然の重視、超理性的なものや永遠に向かう傾向、  
創造的個性の尊重×普遍的・理性的なものを求める古典主義）

ブレイク『無垢と経験の歌』（1789, 1794）：人の心に宿る二つの対立した状態

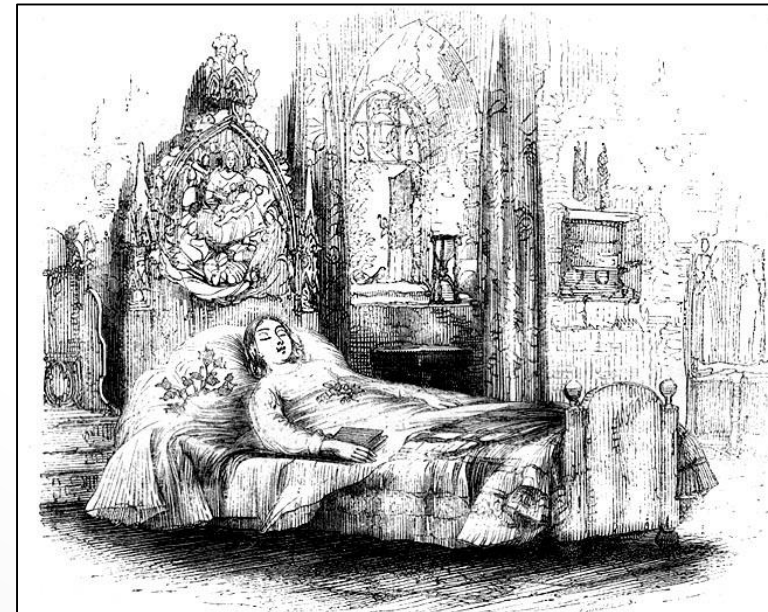
ワーズワスにおける子供時代賛美：

「虹」“My Heart Leaps Up”（1802）：

「子供は大人の父」

大自然を前に感動を覚える無垢な「子供の心」を持ち続けることの意義

成長の停止願望／死による清純な魂の不滅 ⇒ ディケンズ文学における少女の清純さの称揚：『骨董屋』の Little Nell



# ヴィクトリア朝の子供（暴力の犠牲者）

子供像の転換点：Charlotte Brontë, *Jane Eyre* (1847)

美人でない孤児のヒロインによる社会規範からの逸脱：反抗心と自由恋愛 ⇒ 無垢とは縁のない経験の世界で精神的成長を見せる主人公

私的領域（家庭）と公的領域（社会）における物理的・精神的暴力の犠牲者としての子供たち：捨て子 (foundling)、孤児 (orphan)、浮浪児 (waif)、売春婦 (prostitute)

社会問題としての児童労働（1833年の工場法：9歳以上、1日12時間以下 ⇒ 煙突掃除、機械掃除、石炭運びなど）

子供は大人が考えているほど（望んでいるほど）無垢ではない：天使（神の使い）ではなく、神に背いた原罪を背負う人間の子供（小さな大人）



# 子供は天使か否か？ ⇒ アメリカは善か悪か？

36

人間の性格を形成するのは、「生まれ (nature)」か、「育ち (nurture)」か？  
生得説か経験説かの二者択一ではなく、遺伝と環境との相互作用

性善説（孟子）＝ 性悪説（荀子）：善悪が共存する人間

善と悪 (good and evil) という二項対立 ⇒ 意識と無意識の分析による脱構築  
庭にはびこる雑草も咲き誇る花も、根は地下で複雑に絡まっている（美醜の共存）。

善と悪の恣意的判断：主権国家が合法的な「善の暴力」の独占を通して軍隊という  
正義の暴力で「悪の暴力」に対抗する。Cf. アメリカ×北朝鮮

宇宙論（無と有）⇒ 神話学（闇と光）⇒ 二元論  
⇒ 二値的なデジタル思考 (0 & 1, on & off) ⇒  
デジタル社会の様々な問題 ⇒ 人工知能 (AI) の  
限界を打ち破る人間の「創造的想像力」の重要性

歴史研究 × 文学研究 = 事実 × 虚構 = (hi)story

第一級の歴史資料としての文学作品

